



# 真野川

稲井中3つの「あ」

【第25号】

あいさつ

あきらめない

あいてのために

発行日  
平成27年10月16日

稲井中電話番号  
0225-91-2314  
FAX 91-2315

## 陸上部 明日から県新人戦



陸上部は10月17日(土)・18日(日)の2日間、利府のひとめぼれスタジアムで県新人大会を迎えます。

3年生が抜け、1・2年生のチームになってから取り組んだ新たな種目に挑戦する選手もいます。それぞれが目標を掲げて挑む陸上部新チーム初の大きな大会です。応援よろしくをお願いします。出場種目は以下のとおりです。

### 【男子出場選手】

奥山	颯大②	1500m	400mR
阿部	昂大②	110mH	400mR
日下	光希②	砲丸投げ	
山根	蒼良②	2年100m	
阿部	弘和①	1年100m	400mR
柳田	大智①	3000m	400mR

### 【女子出場選手】

遠藤	彩夏②	800m	400mR
三浦	由奈②	2年100m	400mR
岡	茜里①	走幅跳	400mR
岡	莉々亜①	1年100m	400mR
東條	浩子①	100mH	
本田	姫星①	1500m	400mR
山根	姫奈①	砲丸投げ	400mR

※競技開始時刻は9時30分です。

### 稲井地区小中学生意見発表会 「悲しみを乗り越えて」3年 鈴木大斗

みなさんには、将来の夢や就きたい職業はありますか。私にとっての将来の夢は「建築家」になることです。

四年と六カ月前に、東日本大震災が起こり、とてつもない勢いの津波が、私の故郷、女川を襲いました。私は、自分の将来の目標について、この時から真剣に考えるようになりました。いつもは家の見えるはずの場所から、その時は、茶色い水が家を巻き込みながら、白波を立てて渦を巻いていました。自分の住んでいた家は屋根すら見えない状態でした。

それから水が引いて、自分の住んでいた家を見に行くと、声が出ないほど私は衝撃を受けました。窓はほとんど割れ、ベランダは落ち、家の中は散乱状態、壁にはところどころヒビが入っていて、いつ崩れてもおかしくない状態でした。まだ比較的新しい家だったからか、周りの家がほぼ流されている中、自分の住んでいた家は八割ほど原型をとどめていました。しかし、数日前まで自分が住んでいた家だと、とても思えないほどでした。

いつもの面影がない家を見て、「自分が、もし津波や地震のような災害にも負けないような家を建てられたら、もうこんな思いはしないのに。」そう思ったのが、まだ小学四年生だった私が、家を建てるということに、強く引き付けられたきっかけでした。そして、今では建築家になりたいという理由がもう一つ増えました。それは、建築家という仕事が、人のためになり、とてもやりがいのある仕事だということに気付いたからです。

依頼してくれた人の喜ぶ顔が見たいという点や、自分の設計した家が形として、その後に残るといふ点では、とても達成感が強く、何より、やっつけて楽しい仕事だと思いました。

今住んでいる家は、以前住んでいた家に似ていた図面を選んだそうです。それはなぜかという、思い出があるという他にも、何より、とて



も住みやすかったからだそうです。家というのは、住みやすいものでなければいけません。

どこかに、住みづらい点があれば、住みやすいとは言えません。だから建築家というのは、依頼してくれた人の要望に合わせた、その人にとって最高の家を作らなければならないのです。要望がたくさんあればもちろん答えなければならず、どんなことにも答えなければならぬ点で、とても大変な仕事だと思います。

しかし、どんなに大変な仕事でも、願いを聞き入れ、どうしたらその人にとって最高の家になるかを考える。そういった建築家の一苦労があるからこそ、依頼した人の本当の笑顔が見られるのだと思います。かつて家を建てた私たち一家がそうであったように。だから私は、安心して住んでもらうためにも、苦労を惜しまず、きちんと自分の願いや思いを伝えられるような建築家になりたいと思います。

私が大人になり、建築家になったときには、もう町の復旧は終わっているでしょう。ですが、復旧は終わっても、復興に終わりはありません。なぜなら、復興とは「衰えたものがまた盛んになり、またそれ以上に良くなること」だからです。だから、津波が来て、同じようなことがあったとしても、私は絶対にあきらめません。

### 稲井地区小中学生意見発表会 「スポーツを通して得たこと」3年 日野陸斗

みなさんは、スポーツを通して心が熱くなった経験はありませんか。

私は小学三年生から野球を始め、野球を通してたくさんのお話を学びました。

それは、あいさつの大切さです。あいさつはできて当たり前とみなさんは思いますか。初めから抵抗なくできた人は、心がこもったあいさつができていますのだと思います。私は野球をする前までは、人と会っても恥ずかしくて頭は下げますが、声を出してあいさつをすることはほとんどありませんでした。

しかし、野球部に入っはじめてに教わったことは大きな声であいさつすることでした。練習中や試合でも大きな声で応援しなければいけませんでした。

「ドンマイ、ドンマイ」、「ナイスキャッチ」。チームメイトとお互いに声かけをしていううちに、自然と恥ずかしくならず大きな声であいさつができるようになりました。次に、私は「仲間を思いやること」を学びました。

野球は一人ではできません。一人だけ上手な選手がいても勝つことはできません。エラーをした人がいれば、なぐさめる。打てなかった人がいれば自信をもとて勇気づける。これはとても大切なことだと私は感じています。チームメイトを責めても雰囲気が悪くなり、お互いに傷つくだけです。そして、そんなチームで勝ったとしても全然うれしくありません。互いに励まし合い、声を掛け合って雰囲気を良くすることが大事なのです。そうすれば、一度エラーしてしまった人でも「今度こそは、みんなのためにも」と思い、頑張れるはず。それがチームプレイで120%の力が出せる条件だと思います。

相手を褒め、相手を認めることで、お互いの力が発揮される。これは、日常生活でも同じことが言えるのではないのでしょうか。仲間を思いやることは、自分自身を、そして仲間を成長させると私は考えます。

また、野球をはじめたころ指導者の方から、何事にも「感謝の気持ち」



を持って、練習に取り組みなさいと教わりました。七年もの間、毎週のようにある大会や、練習試合の送迎をしてくれ、試合の時には大きな声での応援をしてくれた両親。私のバッティングの調子が悪くなって悩んでいた時には、仕事から帰って疲れているにも関わらず練習のために、バッティングセンターに週3回も連れて行ってくれました。普段は口にして言えないけれど、本当はとても感謝しています。

また、休日にもかかわらず私たちのために指導してくださった先生。私たちと一緒に汗を流し、野球部を強いチームにしてくれようとしたコーチにも、大変感謝しています。大人になってもこの感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

私はスポーツ万能ではありませんでした。しかし、頑張っ汗をかいて練習した後の爽快感、今までできなかったことが練習によってできるようになった達成感。一緒にたくさん思い出を作ったチームメイト。辛い時、苦しい時をみんなで乗り越えてきました。

野球というスポーツを通して私たちは、強い絆をつくることができました。そんな野球に対しても感謝しています。

たくさんの人に感動を与え、心が熱くなるスポーツ。この大好きなスポーツを、私はこれからも続けていきたいと思っています。